

四国におけるクルーズ船の寄港状況について

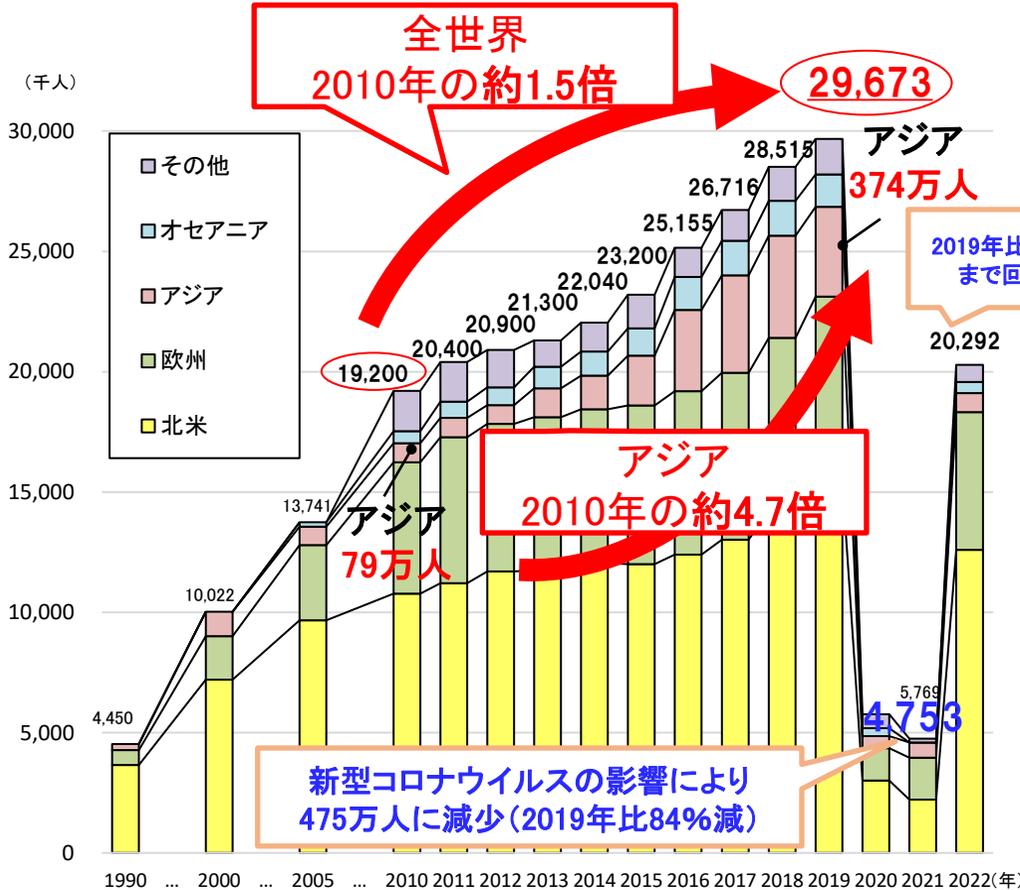
令和6年10月10日

国土交通省 四国地方整備局

世界と日本のクルーズ人口の推移

- 世界のクルーズ人口は、2019年に2,967万人と過去最高を記録し、特にアジアのクルーズ人口は2010年(79万人)から2019年(374万人)にかけて約4.7倍と、大きな伸びを示している。
- 2022年の世界のクルーズ人口はコロナ前である2019年比で68%(2,030万人)まで回復。
- クルーズは、価格やサービスによってラグジュアリー、プレミアム、カジュアルなどのタイプがあり、カジュアルクラスがマーケット全体の約8割を占めている。

世界のクルーズ人口の推移



世界のクルーズ市場のイメージ

ラグジュアリー (ブティック※・エクスペディション等含む)

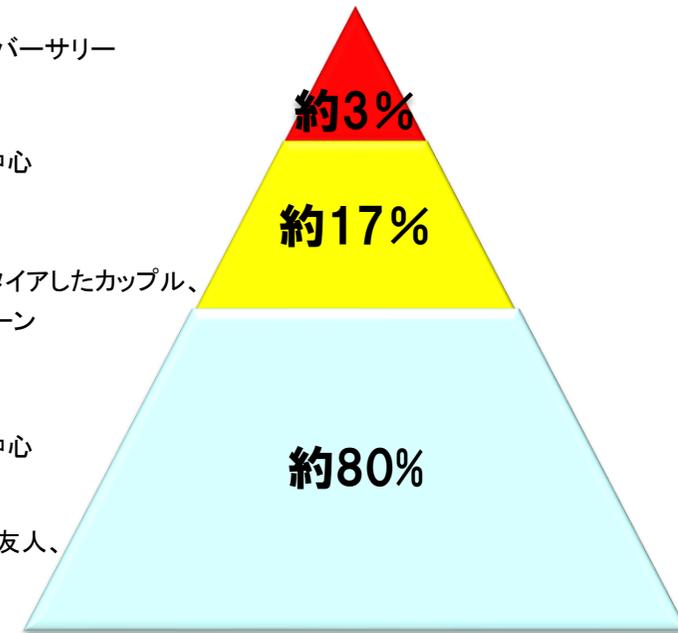
- 10泊以上のクルーズ中心
- 1泊: \$400~
- 年齢層: 50代以上、
- タイプ: リタイア、アニバーサリー

プレミアム

- 7泊以上のクルーズ中心
- 1泊: \$200~
- 年齢層: 30代以上
- タイプ: 熟年以上、リタイアしたカップル、友人、ハネムーン

カジュアル

- 3~7泊のクルーズ中心
- 1泊: \$70~
- 年齢層: 20代以上、
- タイプ: 現役~熟年、友人、ファミリー



出典: CLIA資料より港湾局作成。

* 2011年以前のアジア数値はCLIAによる推定値。

出典: クルーズ教本(2022年版)(JOPA)より港湾局作成

世界の各クルーズ船社の概要

○世界のクルーズ船の隻数は446隻、市場規模は523億ドル。
 ○世界のクルーズ船社のマーケットシェアは第1位がカーニバル社で39.1%、第2位はロイヤル・カリビアン・クルーズ社24.90%、第3位がMSCクルーズ社9.3%。

カーニバル・コーポレーション&PLC

- 世界最大のクルーズ会社。傘下に10のブランド(プリンセス・クルーズ、コスタ・クルーズ等)があり、グループで世界シェアの約4割を担う。



プリンセス・クルーズ

船名:ダイヤモンド・プリンセス
 総トン数:115,875トン
 乗客定員:2,706人



コスタ・クルーズ

船名:コスタ・セレーナ
 総トン数:114,281トン
 乗客定員:2,930人

ロイヤル・カリビアン・グループ

- 世界第2位のクルーズ会社。傘下に5のブランド(ロイヤルカリビアン・インターナショナル、セレブリティクルーズ等)があり、グループで世界シェアの約2.5割を担う。



ロイヤル・カリビアン・インターナショナル

船名:スペクトラム・オブ・ザ・シーズ
 総トン数:169,379トン
 乗客定員:4,246人



シルバークルーズ

船名:シルバークルーズ・ウィスパー
 総トン数:28,258トン
 乗客定員:388人

MSCクルーズ

- 業界で3位の規模を有し、特にヨーロッパ市場で高い集客力をもつクルーズ会社。



MSCクルーズ

船名:MSCベリッシマ
 総トン数:171,598トン
 乗客定員:5,686人

ノルウェー・クルーズライン

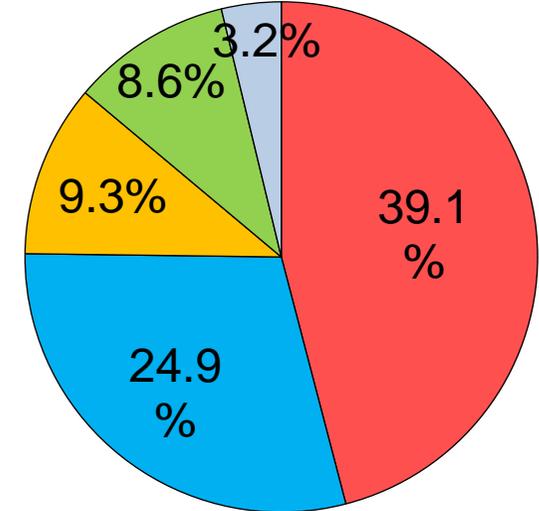
- 業界で4位の規模を有し、傘下に3のブランド(リージェント・セブンシーズ・クルーズ、オーシャニア・クルーズ等)がある。



リージェント・セブンシーズ・クルーズ

船名:セブンシーズ・エクスプローラー
 総トン数:55,254トン
 乗客定員:732人

世界のクルーズ船社のマーケットシェア



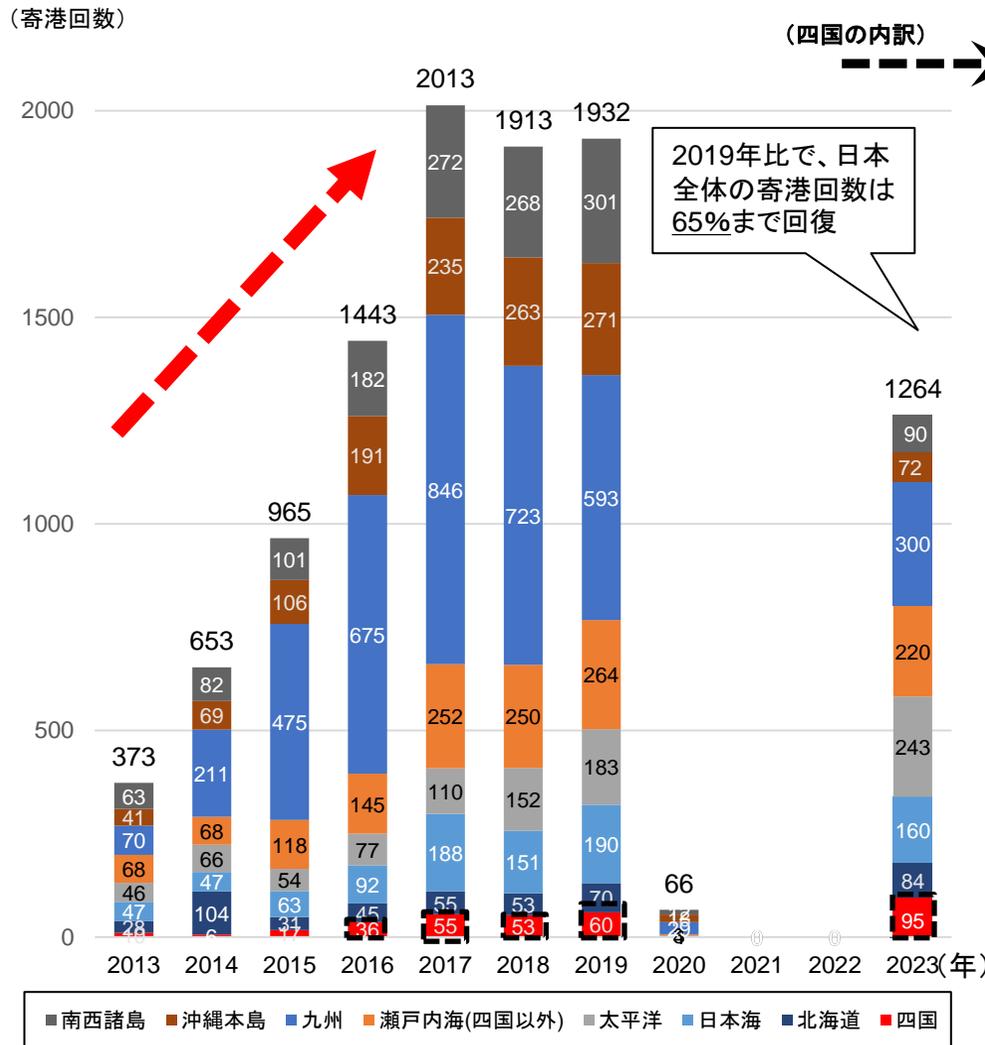
- カーニバル・コーポレーション&PLC
- ロイヤル・カリビアン・グループ
- MSCクルーズ
- ノルウェー・クルーズライン・ホールディングス

出典: Cruise Industry News Annual Report 2023

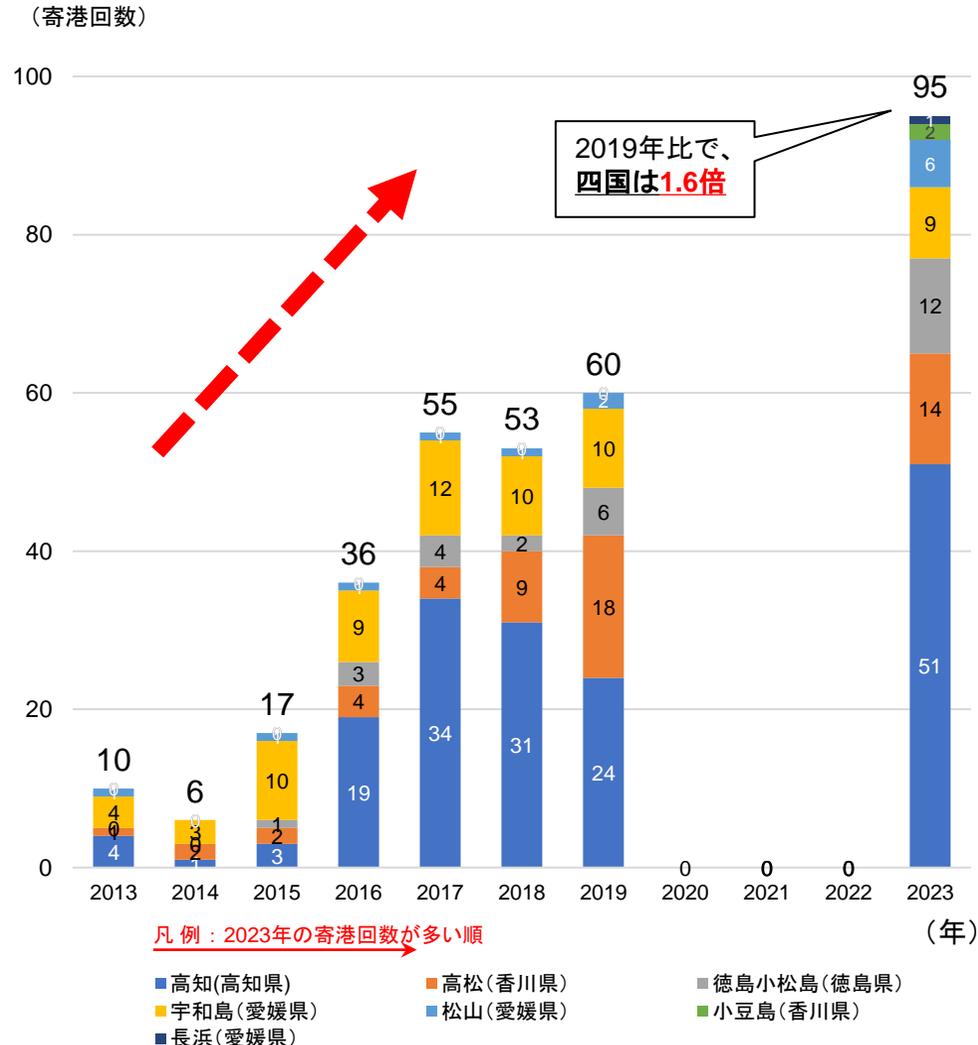
2023年の四国における外国クルーズ船の寄港回数

○2023年における全国の外国クルーズ船寄港回数は、コロナ禍前(2019年)の約65%となっている。
 ○一方、四国については、寄港回数はコロナ禍前(2019年)の1.6倍となっており日本全体と比較し大きく増加している。

日本全体における外国クルーズ船の寄港回数(地域別)



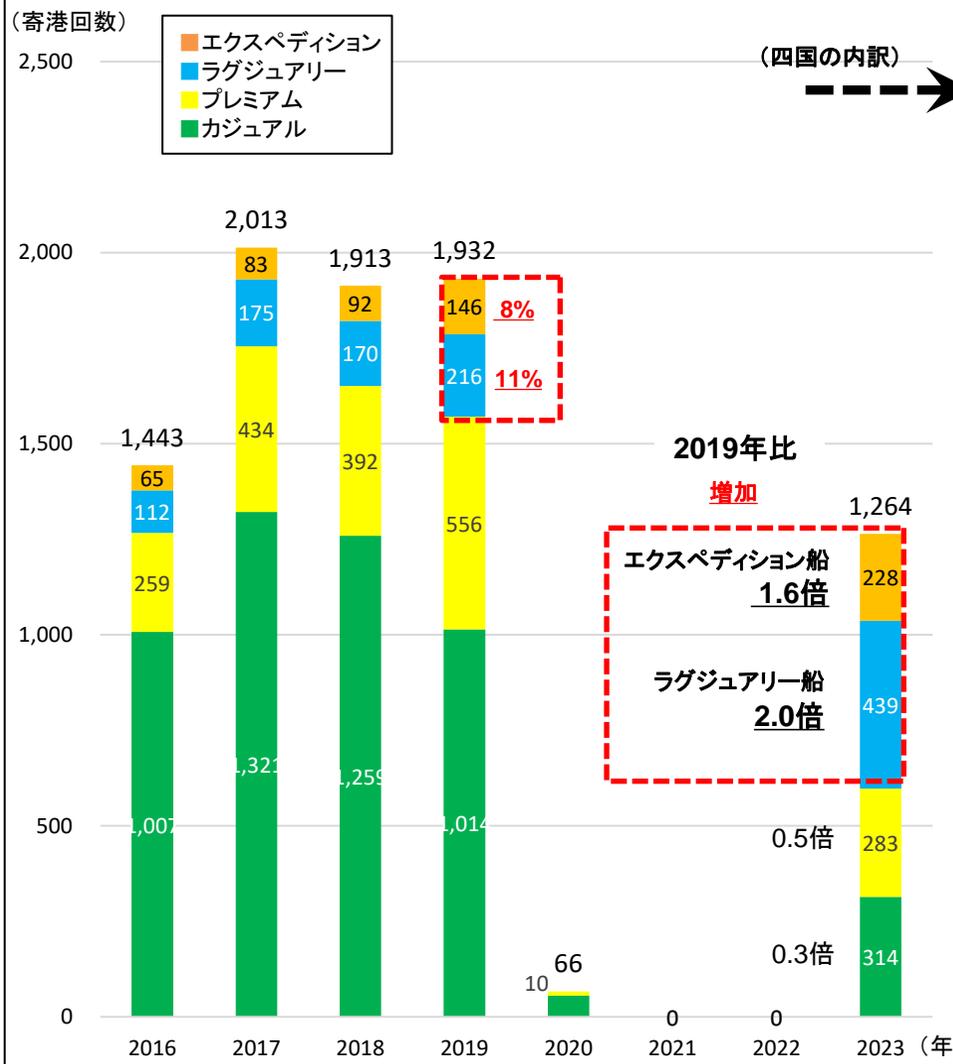
四国における外国クルーズ船の寄港回数



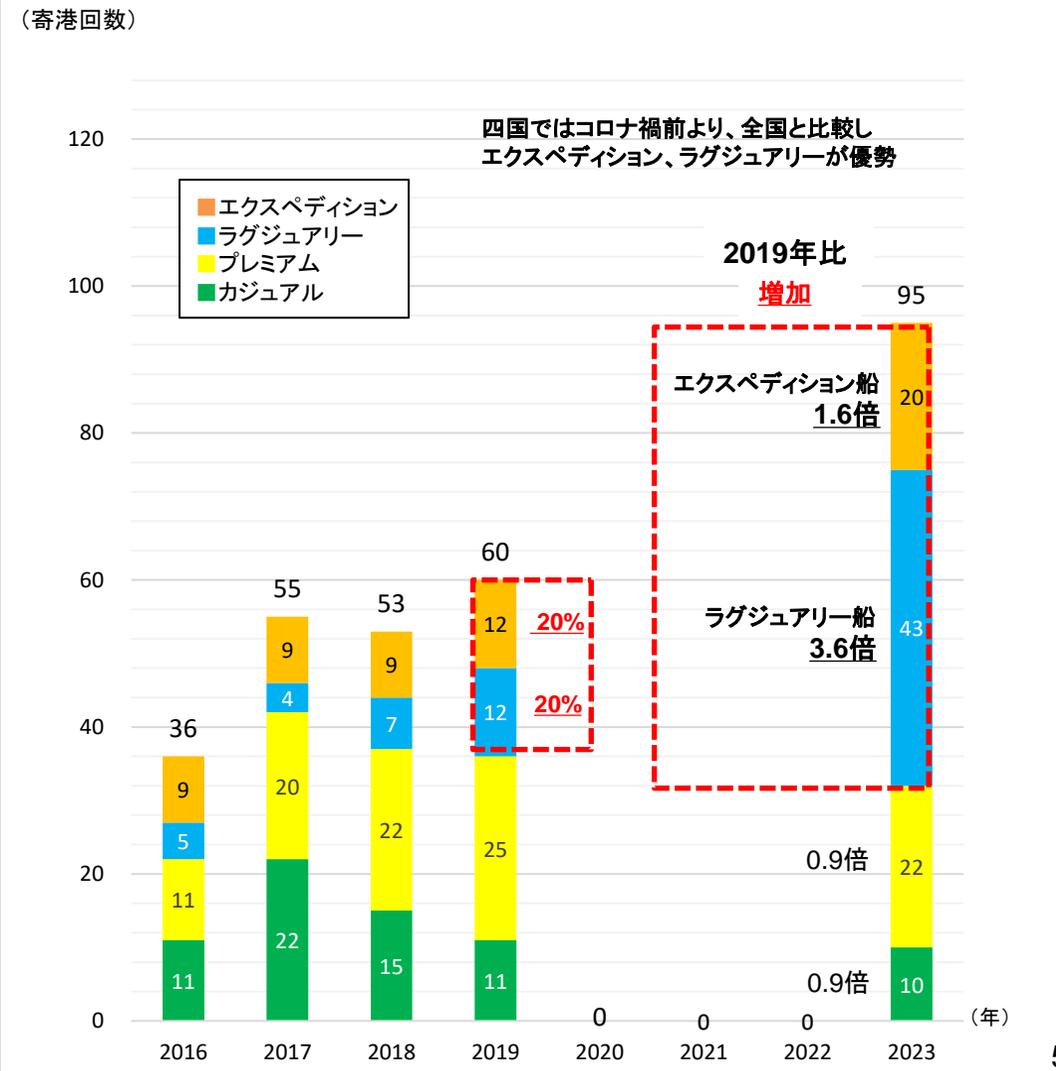
○日本全体において、2023年は、ラグジュアリー・エクスペディション船の寄港回数の割合が増加しており、コロナ禍前(2019年)と比較して、エクスペディション船が1.6倍、ラグジュアリー船が2.0倍となっている。

○四国においては、ラグジュアリー船の割合が3.6倍と高く、全体でコロナ禍前を上回っている。

日本全体の外国クルーズ船寄港回数の内訳(クラス別)



四国の外国クルーズ船寄港回数の内訳(クラス別)



2023年に四国の港湾等に寄港したクルーズ船一覧①

○2023年に四国の港湾に寄港したクルーズは95回。
 ○その内訳は、エクスペディションクラス(20回)、ラグジュアリークラス(43回)、プレミアムクラス(22回)、カジュアルクラス(10回)となっており、エクスペディション、ラグジュアリークラスの占める割合が約66%と高くなっている。

エクスペディションクラス(20回)

〈ポナン〉

ル・ソレアル：総トン数10,992トン・乗客定員264人

宇和島港：4回、高松港：1回



〈リンドブラッド・エクスペディションズ〉

ナショナル・ジオグラフィック・レゾリューション：総トン数12,786トン・乗客定員126人

宇和島港：2回、小豆島：1回、高松港：2回、長浜港1回

〈ヘリテージ・エクスペディションズ〉

ヘリテージ・アドベンチャー：総トン数8,445トン・乗客定員140人

宇和島港：3回、高松港：3回

〈コーラル・エクスペディションズ〉

コーラル・アドベンチャー：総トン数5,536トン・乗客定員120人

松山港：1回、徳島小松島港：1回、小豆島：1回

ラグジュアリークラス(43回)

〈ウインドスター・クルーズ〉

スター・ブリーズ：総トン数12,969トン・乗客定員312人

高松港：6回、高知港：2回



〈リージェント・セブンシーズ・クルーズ〉

セブンシーズ・エクスプローラー：総トン数55,254トン・乗客定員732人

高知港：9回

〈招商バイキングクルーズ〉

招商伊敦：総トン数48,000トン・乗客定員930人

高知港：10回、徳島小松島港：10回

〈シーニック・クルーズ〉

シーニック・エクリプス：総トン数17,545トン・乗客定員228人

高知港：1回、松山港：2回

〈オーシャニア・クルーズ〉

ノーティカ：総トン数30,277トン・乗客定員684人

高知港：3回

プレミアムクラス(22回)

〈プリンセス・クルーズ〉

ダイヤモンド・プリンセス：総トン数115,906トン・乗客定員2,706人
高知港：6回、松山港：1回



〈ホーランド・アメリカ・ライン〉

ウエステルダム：総トン数82,862トン・乗客定員1,964人
高知港：5回、徳島小松島港：1回

〈アザマラ・クルーズ〉

アザマラ・クエスト：総トン数30,277トン・乗客定員702人
高知港：2回、高松港：2回

〈セレブリティ・クルーズ〉

セレブリティ・ミレニアム：総トン数90,940トン・乗客定員2,218人
高知港：4回

〈キュナード・ライン〉

クイーン・エリザベス：総トン数90,901トン・乗客定員2081人
高知港：1回

カジュアルクラス(10回)

〈MSCクルーズ〉

MSCベリッシマ：総トン数171,598トン・乗客定員4,418人
高知港：8回、松山港：2回

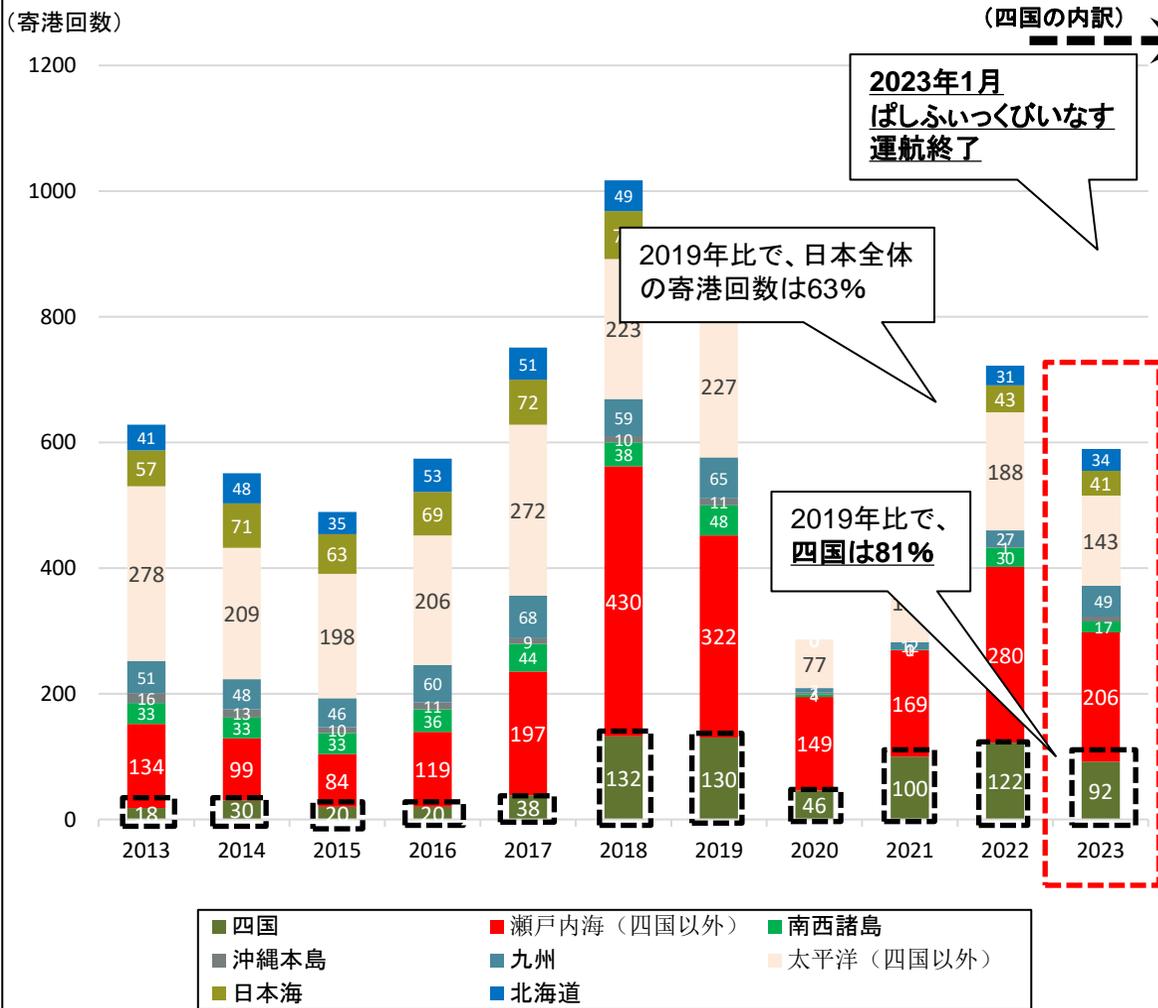


四国における邦船クルーズの寄港回数の動向

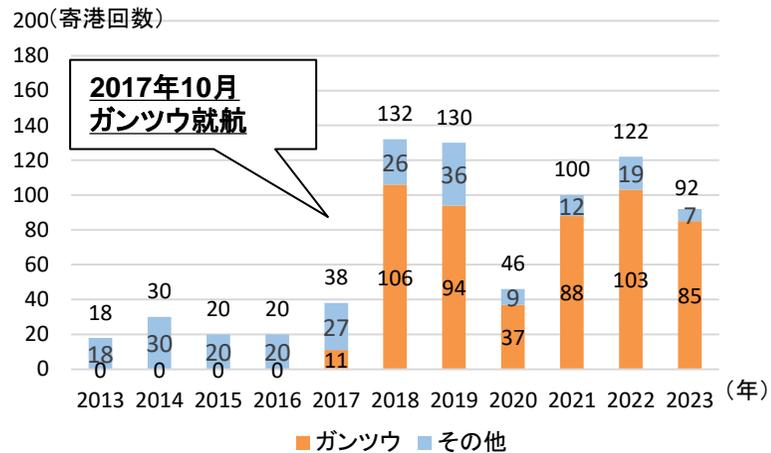
○日本全体において2023年の邦船クルーズの寄港回数は590回で、日本クルーズ客船のクルーズ事業終了（2023年1月にぱしふいっくびいなす運航終了）の影響により、2022年の722回から減少した。

○一方、四国において2023年の邦船クルーズの寄港回数は、2022年から99回に減少しているが、全国寄港回数の17%を占める。
 なお、四国の寄港回数は99回のうち、ガンツウが85回(85%)を占めている。

日本全体における邦船クルーズの寄港回数の内訳(地域別)



四国における邦船クルーズの寄港回数の内訳



ガンツウ

船社: せとうちクルーズ(広島県)
 総トン数: 3,200トン 全長: 81.2m 乗客定員: 38人



運航ルート(例)

“恍惚の瀬戸を巡り、古を慈しむ3日間”

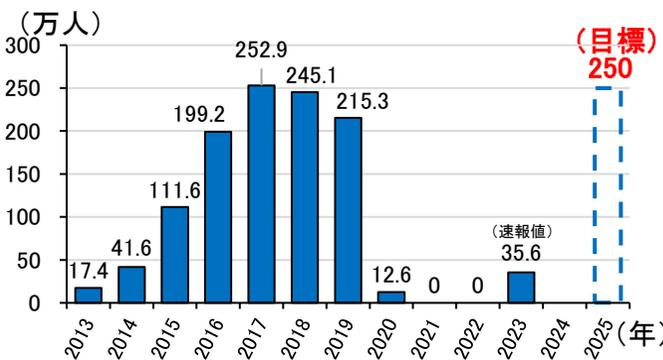
(2023年6月～, 月1～2回程度)

ベラリスタマリーナ～尾道水道～三原瀬戸～契島～安芸難大橋～
 音戸の瀬戸～広島・宮島沖～大黒神島～桂島水道～津和地瀬戸～
 二神島～釣島水道～斎灘～愛媛・大三島沖～鼻栗瀬戸～引削瀬戸
 ～百島～ベラリスタマリーナ

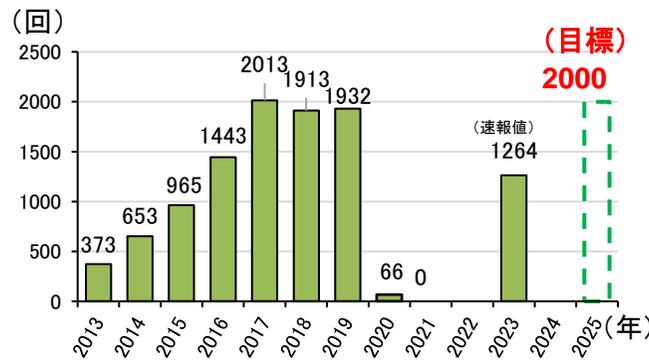
クルーズ再興に向けた訪日クルーズ本格回復への取組

○日本におけるクルーズ再興に向け、安心してクルーズを楽しめる環境づくりを進め、訪日クルーズ旅客を令和7年にコロナ前ピーク水準の250万人まで回復させるとともに、外国クルーズ船の寄港回数がコロナ前ピーク水準の2,000回を超えることを目指した取組を推進する。また、地方誘客を進めるための外国クルーズ船が寄港する港湾数について、令和7年にコロナ前ピーク水準の67港を上回る100港とすることを目指して取り組む。

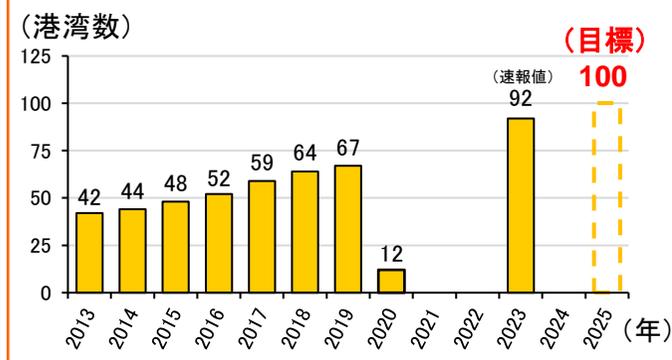
新たな目標値① 訪日クルーズ旅客数



新たな目標値② 外国クルーズ船の寄港回数



新たな目標値③ 外国クルーズ船が寄港する港湾数



目標の達成に向け実施する主な取組

ハード・ソフト両面からの支援

国際クルーズ旅客受入機能高度化事業

クルーズ旅客の利便性・安全性の向上に資する事業を支援

【補助対象経費】

- ・クルーズ旅客の移動又は手荷物等の搬出入の円滑化に要する経費
- ・クルーズ旅客が利用する旅客上屋等の受入環境改善に要する経費
- ・クルーズ旅客の安全性の向上に要する経費



屋根付き通路 (鹿児島港)

クルーズ等訪日旅客の受入促進事業

クルーズ等訪日旅客の受入促進や、港湾周辺等の魅力向上を図る事業を支援

【補助対象経費】

- ・クルーズ船の受入体制の強化に要する経費
- ・クルーズ旅客等の満足度向上と地域経済効果の創出に要する経費
- ・クルーズ船寄港プロモーションに要する経費



FAMツアーの実施
(例: 阿波「藍染め」の体験)

世界に誇る国際クルーズ拠点の形成

国が指定した港湾において、港湾管理者とクルーズ船社との間で、以下の内容の協定を締結できる制度等を創設

- 港湾管理者はクルーズ船社に岸壁の優先的な使用を認める
- 船社は旅客施設を整備し、他社の使用も認める



八代港における国際クルーズ拠点

訪日プロモーション

全国クルーズ活性化会議と連携し、クルーズ船社、自治体等が参加する商談会の開催や国際展示会への出展を実施



国際展示会への出展

安心してクルーズを楽しめる環境づくり

ダイヤモンド・プリンス号での新型コロナウイルス集団感染の事案を受け策定した、「クルーズの安全・安心の確保に係る検討・中間とりまとめ」(2020年9月18日)を基本とした、「国土交通省におけるクルーズの安全・安心の確保に係る最終とりまとめ」を公表(2023年9月11日)

最終とりまとめの主な内容

- ダイヤモンドプリンス号事案への課題と対応、クルーズの段階的な再開、国交省が実施した具体的な措置を整理
- クルーズの安全・安心の確保に向けた今後のあり方として、関係者間の連携・連絡体制の強化や、既知の感染症・新たな感染症への対応、大規模集団感染発生時の追加的措置等を整理

クルーズ船寄港による地域経済効果の最大化

寄港地での消費を船内等で喚起するスキームを構築

寄港地の地方公共団体とクルーズ船社が連携し、寄港地での消費を船内等で喚起するスキームを構築

上質な寄港地観光造成

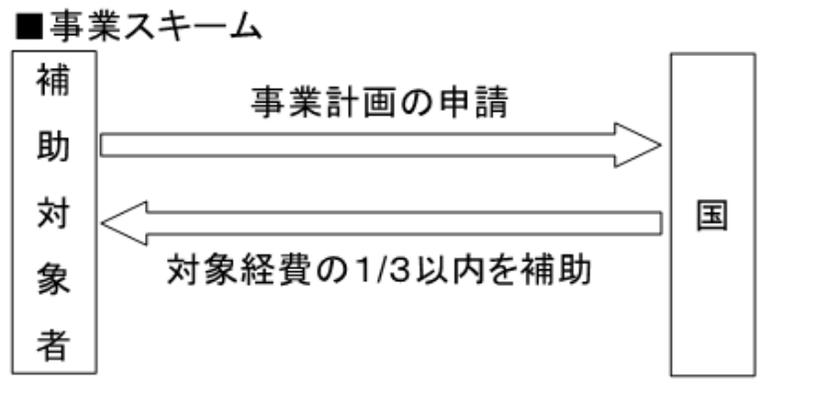
地元エキスパートの同行や解説、体験型観光を核とした寄港地観光ツアーの造成を促進

⇒キーワードは「本物」や「特別感」

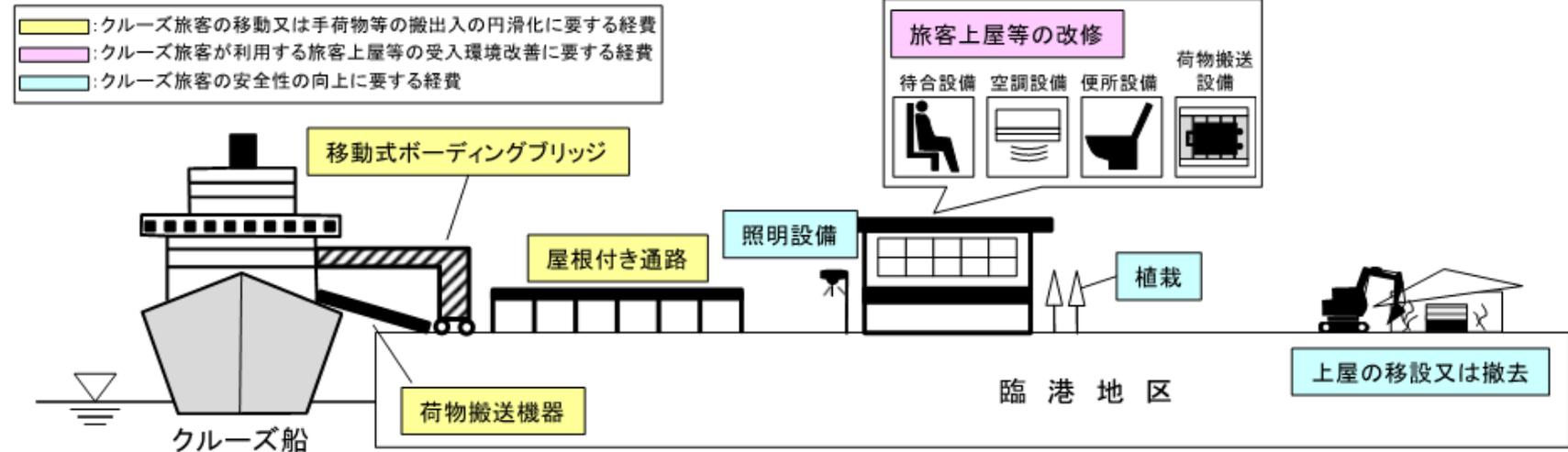
○ クルーズ船の寄港促進のため、クルーズ旅客の利便性や安全性の向上等を図り、クルーズ旅客の受入環境改善を行うために要する費用の一部を補助する。

事業概要

- 補助対象経費
 - ・クルーズ旅客の移動又は手荷物等の搬出入の円滑化に要する経費
 - ・クルーズ旅客が利用する旅客上屋等の受入環境改善に要する経費
 - ・クルーズ旅客の安全性の向上に要する経費
- 補助対象者
地方公共団体(港務局を含む。)又は民間事業者



補助対象経費のイメージ



□ 現況及び課題

松山港外港地区のクルーズ船受入れ岸壁は貨物併用岸壁であり、旅客施設を有しておらず、寄港時の貨客分離等の安全対策が課題である。

また、クルーズ船下船後の安全かつ円滑な導線確保が課題である。

【2023年クルーズ船寄港実績:7回(すべて外国船)】

□ 整備概要

屋根付き通路等を整備し、旅客施設に代わる移動式の待合施設を設置することで、旅客の円滑な移動導線と受入環境の改善を図る。

また、貨客分離施設や誘導路面標示にて、旅客導線上の安全性を向上させる。

□ 位置図



□ **事業期間** 令和5年

□ **事業主体** 愛媛県

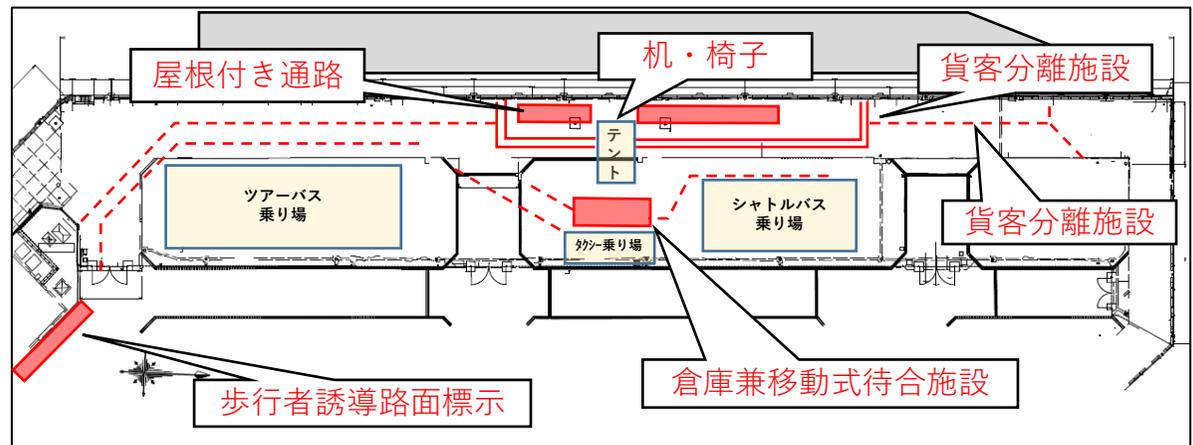
□ 整備内容

項目	数量
待合施設等 (倉庫兼移動式待合施設、机、椅子)	1式
貨客分離施設	1式
屋根付き通路	1式
歩行者誘導路面標示	1式



倉庫兼移動式待合施設

□ 整備イメージ



クルーズ等訪日旅客の需要を確実に取り込み、我が国のクルーズ再興を目指すとともに、港湾周辺等の魅力向上を図るため、クルーズ船の受入体制の強化、クルーズ旅客等の満足度向上と地域経済効果の創出、クルーズ船寄港プロモーションに要する経費の一部を補助する。

補助対象経費

・クルーズ船の受入体制強化

●クルーズ船受入に向けた安全対策

(例: 船舶航行安全委員会の開催、安全性の現地確認、小規模港湾等における安全性確認 等)

・クルーズ船寄港プロモーション

●新たなクルーズ船の誘致に向けた訪日クルーズプロモーション

(例: 国際展示会の開催・出展、商談会の開催、デジタル媒体による情報発信 等)

・クルーズ旅客等の満足度向上と地域経済効果の創出

●地場産品等の消費喚起

(例: 船内レストランでの地元食材提供のスキーム構築 等)

●訪日外国人が楽しめる船内コンテンツのスキーム構築

(例: 船内コンテンツの充実に向けたニーズ調査・商品開発・実証実験 等)

●上質な寄港地観光及び海上観光の造成 (★)

(例: 上質な寄港地観光プログラムの造成、海上観光ツアーの実証 等)

補助対象者

- ・ 港湾管理者
- ・ 地方公共団体
- ・ 民間事業者(登録DMO及び候補DMOを含む)
- ・ クルーズ振興のための地域の協議会等

補助率

- ・ 1/2以内

※(★)については、クルーズに関連した取組に限らず、港湾周辺等における訪日旅客の受入促進に係る事業も対象となる。

補助対象経費のイメージ



現状と課題

事業区分:客船受入促進・プロモーション事業

- 新型コロナウイルス感染症拡大による過去数年間の客船寄港数減少により、地方経済への影響が深刻化している。県内港湾に幅広く客船を誘致し、地域経済効果を創出することが課題。
- 客船受入については、観光地等において求められる対応やサービスについて、地元側と船社および旅行会社との間で予め共通理解をばかり、て安全安心な寄港の実現に向けて協力することが重要。
- 「食」をメインテーマとしたクルーズ商品の造成等、船社の新たなニーズを踏まえた取り組みを行っていく必要がある。

事業内容

事業者 高知県

- 船社の食材調達担当者を対象としたFAMツアーの実施
- 上質な寄港地観光造成
- 船社向けプロモーション

事業実施箇所及び事業内容(イメージ)



○ 上質な寄港地観光造成

- FAMツアー実施



○ FAMツアーの実施

【対象:船社の食材調達者】

- 試食提案会の開催
- 県産食材商談会の開催
- 産地訪問ツアー等の実施
- 岸壁等における物産販売



○ 船社向けプロモーション

- 「シートレード・クルーズ・グローバル2024」への出展
- 船社との国内商談会の参加
- 国内・秋外の船社本社訪問
- 他港と連携した共同航路提案(FAMツアー等)
- クルーズイベント参加によるPR等



外国クルーズ船の我が国への寄港回数(2023年速報値)

○2023年に外国クルーズ船が寄港した港湾等※1のうち、29の港湾等で外国クルーズ船が初寄港となった。

※：港湾等： 港湾法上の港湾(国際戦略港湾、国際拠点港湾、重要港湾、地方港湾、56条港湾)、漁港、離島(沖泊)

2023											
順位	港湾名	寄港回数	順位	港湾名	寄港回数	順位	港湾名	寄港回数	順位	港湾名	寄港回数
1	横浜	101	26	徳島小松島	12	51	尾道糸崎	3	76	両津(佐渡島)	1
2	長崎	95	27	八代	12	52	青方(中通島)	3	77	御前崎	1
3	鹿児島	78	28	室蘭	11	53	細島	3	78	伊根漁港	1
4	那覇	72	29	釧路	11	54	伊延(沖永良部島)	3	79	姫路	1
5	博多	59	30	油津	11	55	能代	2	80	鳥取	1
6	広島	58	31	宮之浦	11	56	岡田(大島)	2	81	西郷	1
7	神戸	54	32	新潟	10	57	敦賀	2	82	犬島	1
8	清水	53	33	新宮	10	58	田子の浦	2	83	蒲葎	1
9	高知	51	34	宇野	10	59	浦郷漁港	2	84	宇部	1
10	大阪	46	35	萩	9	60	御手洗(大崎下島)	2	85	長浜	1
11	函館	42	36	宇和島	9	61	仙崎	2	86	福江(福江島)	1
12	東京	33	37	宮古	7	62	小豆島	2	87	与論	1
13	石垣	33	38	仙台塩釜	7	63	里(上甕島)	2	88	古仁屋(奄美大島)	1
14	金沢	32	39	舞鶴	7	64	湾(喜界島)	2	89	下甕島(長浜港)	1
15	青森	29	40	下関	7	65	座間味	2	90	与那国(祖納港)	1
16	境	25	41	北九州	7	66	西表島(小浜港)	2	91	竹富島	1
17	秋田	21	42	酒田	6	67	兼城	2	92	波照間島	1
18	別府	19	43	小木(佐渡島)	6	68	沓形	1		合計	1264
19	名古屋	18	44	福山	6	69	苫小牧	1			
20	佐世保	18	45	松山	6	70	根室	1			
21	平良(宮古島)	17	46	和歌山下津	4	71	鴛泊	1			
22	小樽	15	47	厳原(対馬)	4	72	神威脇漁港	1			
23	高松	14	48	茨城	3	73	八戸	1			
24	唐津	13	49	伏木富山	3	74	八丈島(八重根港)	1			
25	名瀬	13	50	鳥羽	3	75	三宅島(三池港等)	1			

※赤字は外国クルーズ船初寄港の港湾等 ※ 四国の港湾

※港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後変動する可能性がある

- 国内外の観光需要は急速に回復し多くの観光地が賑わいを取り戻しているが、都市部を中心とした一部地域への偏在傾向も見られ、観光客が集中する一部の地域や時間帯等によっては、過度の混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度の低下への懸念も生じている状況であり、適切な対処が必要。
- 地方部への誘客をより一層強力に推進し、全国津々浦々あまねく観光客を呼び込んで行く。
- 観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現するためには、地域自身があるべき姿を描いて、地域の実情に応じた具体策を講じることが有効であり、国としてこうした取組に対し総合的な支援を行う。

1. 観光客の集中による過度の混雑やマナー違反への対応

1-1. 受入環境の整備・増強 観光客が集中する地域における交通手段や観光インフラの充実

- <乗降時や車内等の混雑緩和>
 - ・観光客が集中する路線バスから鉄道への分散・乗り換えを促進・支援（京都等）
 - ・「手ぶら観光」の実証導入（京都で今秋実施）、各地で導入を支援
 - ・チケット購入や運賃支払いのキャッシュレス・多言語化を支援（全国10地域→20地域以上）
 - ・MaaSや配車アプリ等の導入・サービス拡充に対する支援（関西エリア等）
 - ・空港業務人材の確保やスマートレーン導入等による生産性向上への支援（成田・羽田・関空・中部等）
- <輸送力の増強>
 - ・長編成LRT車両・連節バス導入等の車両長大化（広島等）や、鉄道駅改良への支援（大阪・弁天町駅等）
 - ・供給力の徹底的な回復、観光客向けの乗合タクシー導入、混雑乗り場におけるタクシーポーターの配置（東京駅・京都駅）等、「タクシー不足に対応する緊急措置」実施
- <観光客が集中する地域の受入環境の充実>
 - ・歩行空間の拡大や交通結節点の整備等によるまちづくりへの支援（大阪・御堂筋周辺等）
 - ・道路・歩道整備、観光地での無電柱化加速化（低コスト工法・民間委託）やカーシェア発着場所増
 - ・国立公園を中心に入域料を導入し受入環境整備に活用（中部山岳国立公園（松本市ほか）等）
 - ・ICTを活用した「スマートごみ箱」の導入支援（大阪・道頓堀ほか各地）
 - ・宿泊業の採用活動支援、機械化・DX化推進支援、外国人材の活用促進
 - ・本年度中を目処に、Visit Japan Web等を活用した訪日客への民間医療保険加入促進を強化

1-2. 需要の適切な管理 実情に応じた入域管理や異なる需要に対応した運賃設定の促進等

- <入域や交通の管理・規制>
 - ・エコツーリズム推進法や自然公園法に基づく入域規制やガイド同伴の義務化（沖縄・西表島等）
 - ・富士山での適正な入山管理、軽装登山、ごみ投棄等について、今秋から協議を開始
 - ・観光施設・駐車場予約システムやパーク&ライド駐車場整備等への支援（北海道美瑛町ほか各地）
 - ・地域における協議を踏まえた交通規制の実施（青森・奥入瀬エリアで実証）や好事例等の共有
- <異なる需要に対応した運賃・料金の柔軟な設定（規制緩和等）>
 - ・観光スポットへの急行バス導入促進（京都駅-清水寺方面等）と届出による運賃設定への規制緩和
 - ・混雑運賃設定が可能となるよう、今秋中に制度の弾力的運用を行い、導入を促進

1-3. 需要の分散・平準化 空いている時間帯・時期・場所への誘導・分散化

- ・観光スポットや周辺エリアの混雑状況の可視化・リアルタイム配信の導入支援（美瑛町、鎌倉市等）
- ・混雑状況を考慮した空いている観光ルート等の提案による誘導（今年度、箱根・秩父エリアで実証等）
- ・文化財や美術館・博物館等を早朝・夜間に体験する特別プログラムの実施（東京国立博物館等）
- ・休日や平日のバランスの見直し等、観光需要の分散・平準化のための高速道路料金割引の見直し（全国）

1-4. マナー違反行為の防止・抑制 旅マエから意識啓発を推進し、旅ナカへの取組・対策も強化

- <旅マエ・旅ナカにおける啓発>
 - ・今年度中を目処に統一ビクトグラムを策定、世界的な旅行ガイド本への掲載等を通じ周知
 - ・今年度中を目処に、意識の持ち方や行動例を示す「旅行者向け指針」を策定
 - ・看板・デジタルサイネージ等の設置支援、多言語での情報提供（京都市・美瑛町等）
- <マナー違反の抑止>
 - ・私有地や文化財等への防犯カメラ等の設置支援
 - ・観光客のごみ削減につながる行動変容の促進等に係るモデル事業を今年度より開始
 - ・今年中を目処に、条例に基づく罰則等の整備に係る事例集を作成、地域向けに共有

3. 地域住民と協働した観光振興

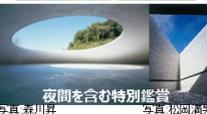
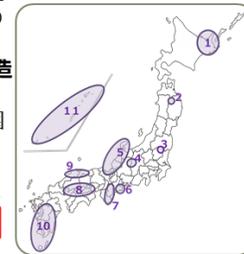
- ・地域の実情に応じた上記の対策を促進すべく、住民を含めた地域の関係者による協議に基づく計画策定・取組実施への包括的な支援を全国約20地域で実施し先駆モデルを創出。他地域にも横展開。
- ・各地域における課題解決に係る相談窓口を観光庁に直ちに設置。各省庁が連携し支援する体制を整備。

2. 地方部への誘客の推進

地方部の観光地の魅力向上や受入環境整備を通じて、都市部を中心とした一部地域への集中を是正、地方誘客を拡大

<地方部の観光地の魅力向上>

- ・11モデル地域における高付加価値なインバウンド観光地づくりの実現
地域のコアバリューを磨き上げ、それを体感できるコンテンツや宿泊施設の充実等により滞在価値を向上させる、高付加価値な観光地づくりを促進
- ①東北海道：知床等手つかずの大自然や希少動物とのふれあいを実現するアドベンチャーツアー造成等を支援
- ④松本・高山：中部山岳国立公園でのトレイルツアー造成や松本・高山の歴史文化を活かした宿改修を支援
- ⑥伊勢志摩：伊勢神宮を核とする参拝文化と国立公園を活かした特別な食の提供や高付加価値な宿改修等を支援
- ⑧せとうち：島嶼部の自然景観美、海と切り離せない歴史や暮らしを活かしたクルーズ観光の強化やアートとの融合等を支援
- ⑨鳥取・島根：古代出雲の精神性、大山等の山岳信仰を活かした特別な体験造成や文化財を活用した宿改修等を支援
- ⑩沖縄・奄美：やんばるや奄美等の自然や歴史を活かした古武道体験など特別な体験造成や古集落の一種貸し等宿改修を支援
- ・全国各地で特別な体験や期間限定の取組等を自然、文化、食、スポーツ等の様々な分野で創出し、全世界に発信
 - 高山エリア：飛騨の里合掌造りを特別に貸切した食文化や郷土芸能などの高付加価値なコンテンツを支援
 - 瀬戸内エリア：瀬戸内国際芸術祭の開催期間中しか鑑賞することができないアート作品の夜間を含む特別貸切鑑賞を支援
 - など、様々な取組を支援
- ・中部山岳国立公園、やんばる国立公園など4国立公園における魅力向上とブランド化
 - 宿泊施設の誘致や自然体験アクティビティの提供など、面的な魅力向上を実施するため、今年度、基本構想案を検討。



<受入環境整備>

- ・空港業務人材の確保や施設整備等への支援（熊本ほか地方空港）
- ・クルーズ船の地方寄港や新たな地方周遊航路造成等の促進（広島港等）
- ・マイナンバーカードを活用し、観光客へのデジタルポイント付与等により広域周遊を促す取組の実施（今年度、静岡県等で実証）

自治体・DMOや事業者が地域住民に積極的に働きかける取組を促進

- ・観光の意義や効果に係る地域住民等向け説明資料の作成、活用の促進
- ・今年度中を目処に、地域における計画策定や具体的な取組実施の参考となる事例や留意事項をまとめた地域向け指針を策定。

日本船社の新たなクルーズ船購入計画

- 郵船クルーズは、新造客船「飛鳥Ⅲ」が2025年に就航予定。
- 商船三井客船は、シーボーンクルーズから「シーボーン・オデッセイ」を購入し、2024年末に再デビュー予定。
また、新造客船が2027年に第1船、2028年以降に第2船が就航予定。
- 日本クルーズ客船は2023年1月にクルーズ事業が終了。
- 両備ホールディングスは2023年12月にポルトガルの造船ウエスト・シーと造船契約を締結。2027年に竣工予定

船社	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年以降
郵船クルーズ	2006年～					
	飛鳥Ⅱ (50,444トン、乗客数:872人、全長:240m)					
商船三井クルーズ	1990年～					
	にっぽん丸 (22,472トン、乗客数:400人、全長:166m)					
	2024年12月～ ※シーボーン・クルーズから購入					
	「MITSUI OCEAN FUJI」(32,477トン、乗客数:458人、全長:198m)					
日本クルーズ客船	新造客船第1船 (35,000トン級)					
	新造客船第2船 (35,000トン級)					
	2023年1月					
両備ホールディングス	ぱしふいっく びいなす 運航終了					
	2027年～ ※2023年12月20日にポルトガルの造船会社ウエスト・シーと造船契約を締結					
新造船 (約10,000トン、乗客数:約120名)						

瀬戸内海クルーズ推進会議の目的と体制

設立の目的（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第2条）

○我が国におけるクルーズが進展しつつある中、瀬戸内海や瀬戸内海を囲む諸港、諸地域において、瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海^(※)となることを目指し、また、その取組みを通じて当該海域・地域の振興を図るとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目的に設立。

※「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたい日本へー（平成28年3月20日）」での施策集において“日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディステーションに～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～”との言及もあり。

推進会議の体制（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第11条、12条、13条）

○瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体、民間団体、国の機関から構成される『全体会議』及び近畿・中国・四国・九州の各エリアに係る構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表：芦谷中国経済連合会会長（中国電力会長）、副代表：長井四国経済連合会会長（四国電力会長）

全体会議

総括事務局：中国地方整備局（港湾空港部）
事務局：近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局（各港湾空港部）

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関（各地方整備局・運輸局）

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

【開催日】

- 第1回（平成30年12月13日）
- 第2回（令和元年5月23日）
- 第3回（令和元年11月12日）
- 第4回（令和2年7月14日）書面
- 第5回（令和2年12月21日）Web
- 第6回（令和4年1月28日）Web
- 第7回（令和5年1月30日）Web
- 第8回（令和6年4月24日）Web

情報共有



提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関（各地方整備局・運輸局）

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

事務局：近畿地方整備局
（港湾空港部）

中国エリア会議

事務局：中国地方整備局
（港湾空港部）

四国エリア会議

事務局：四国地方整備局
（港湾空港部）

九州エリア会議

事務局：九州地方整備局
（港湾空港部）

瀬戸内海クルーズ推進会議 構成員名簿

近畿・中国・四国・九州の瀬戸内海を中心とした地方自治体、国の機関及び民間団体等の計76団体から構成。

「瀬戸内海クルーズ推進会議」構成員名簿（令和5年9月20日現在）

エリア	区分	構成員	
海ネット会員	近畿エリア	重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体	大阪府 ★
		大阪市 ★	
		兵庫県 ★	
		神戸市 ★	
		和歌山県 ★	
		地方自治体	堺市
			貝塚市
			高石市
			岬町
			姫路市
	明石市		
	高砂市		
	南あわじ市		
	和歌山市		
	湯浅町		
	由良町		
	国の機関	近畿地方整備局 ★	
		近畿運輸局 ★	
		神戸運輸監理部 ★	
		岡山県 ★	
広島県 ★			
中国エリア	重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体	岡山県 ★	
		広島県 ★	
		呉市 ★	
		山口県 ★	
		地方自治体	玉野市
	瀬戸内市		
	笠岡市		
	倉敷市		
	広島市		
	竹原市		
	三原市		
	尾道市		
	福山市		
	東広島市		
	廿日市市		
	江田島市		
	坂町		
	宇部市		
	防府市		
	岩国市		
国の機関	中国地方整備局 ★		
	中国運輸局 ★		

「瀬戸内海クルーズ推進会議」構成員名簿（令和5年9月20日現在）

エリア	区分	構成員	
海ネット会員	四国エリア	重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体	徳島県 ★
		香川県 ★	
		坂出市 ★	
		愛媛県 ★	
		今治市 ★	
		地方自治体	徳島市
			小松島市
			小豆島町
			松山市
			宇和島市
	大洲市		
	四国中央市		
	新居浜市		
	国の機関		四国地方整備局 ★
			四国運輸局 ★
	九州エリア	重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体	下関市 ★
			福岡県 ★
			北九州市 ★
			大分県 ★
			地方自治体
佐伯市			
津久見市			
国の機関		九州地方整備局 ★	
		九州運輸局 ★	
民間団体等		新居浜港務局 ★	
	(一社)中国経済連合会 ★		
	四国経済連合会 ★		
	(一社)せとうち観光推進機構 ★		
	(一社)日本プロジェクト産業協議会 ★		
	関西エアポート(株)		
	公益財団法人 大阪観光局		
	(一社)中国旅客船協会		
	(一社)イーストとくしま観光推進機構		
	小豆島クルーズ船誘致の会		
四国ツーリズム創造機構			
その他			

★は全体会議の構成員

瀬戸内海クルーズ推進会議これまでの取り組み

●瀬戸内海クルーズ推進会議アクションプラン（行動計画：令和元年策定）

①広域連携による戦略的な誘致活動の実施

- クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。

※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社）を招聘。

※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施（併せて希望する社に対して現地視察を実施）。

②魅力的なクルーズプランの提案

- 瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。

※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレードなどで船社側に提案。

③戦略的な情報発信

- 船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。

※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編し、瀬戸内海クルーズ用に作成。

- 瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。

- 瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードクルーズグローバルへの参加。

※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。

【これまでの取り組み】

- クルーズ船社等を招聘したセミナー、講演会の開催
 - ・探検クルーズの紹介（船社：ポナン）
 - ・アフターコロナ時代のクルーズ船受入（東武トップ）
 - ・大阪関西万博を契機としたクルーズ船誘致（万博協会）
 - ・MaaSの取り組みの紹介（JR西日本）
 - ・ヨット型客船のコンセプトと寄港地の運営アイデア（両備HD） ほか

- クルーズ船社等への誘致活動及びFAMツアーの開催
 - ・令和元年から7回の誘致活動（商談会）を実施。
 - ・令和2年FAMツアーを開催。
 - ・船社等とのパネルディスカッション。

- クルーズガイドブックの作成
 - ・春夏秋冬クルーズ、探検クルーズプラン
 - ・観光コンテンツ（世界遺産、国宝、グルメ、体験ほか）
 - ・瀬戸内海の情報（航行規制、岸壁スペックほか）

- PR動画の作成
- クルーズ情報プラットフォーム
 - ・外航クルーズ船社向けのクルーズ情報を提供。
- 海外に向けた情報発信
 - ・平成31年シートレードへの参加、令和5年パンフ掲載。

- 令和5年新たな外航クルーズ船社（ポナン）の誘致及び新たな港への寄港が実現！

【目指すべき将来像】

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上（瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて）

■令和5年12月6日～7日、東京（TKP田町）にてアフターコロナにおける新たなクルーズ誘致活動として、セミナー及び商談会を開催。本誘致活動には、邦船社・外国船社・旅行会社・ランドオペレーターから8社を招聘、国・自治体・観光協会等の総勢約60名が参加。

■初日は、招聘者によるセミナーを開催し、令和5年のクルーズ寄港を振り返り、乗客のニーズ、寄港地へのアドバイス及び令和6年以降の展望等が説明された。2日目は、セミナーを踏まえ、自治体・観光協会等から、各地域の観光コンテンツ等のPRによる商談会が行われた。

①開催概要

■開催日時：令和5年12月6日（水）【招聘社によるセミナー】
令和5年12月7日（木）【招聘者と自治体等の商談会】

■開催場所:東京（TKP田町カンファレンスセンター2階）

■参加者

○招聘社：郵船クルーズ(株)、(株)MSCクルーズジャパン、
(株)カーニバル・ジャパン、シルバーシー・クルーズ、
(株)JTB、(株)読売旅行、東武トップツアーズ(株)、
(株)デスティネーションアジア・ジャパン

○参加自治体・観光協会等

広島県、呉市、尾道市、岡山県、山口県、柳井市、防府市、鳥取港振興会
島根県、浜田市、浜田港振興会、大阪港湾局、兵庫県、神戸市、和歌山県
和歌山市、香川県、徳島県、イーストとくしま観光推進機構、愛媛県、
松山市、宇和島市観光物産協会、北九州市、大分県、別府市、佐伯市、
佐伯市観光協会、中国経済連合会、各地方整備局

③商談会



- ・各自治体等からパンフレットや動画等を使ったプレゼンが行われ、各地域の観光、体験イベント、グルメ等を紹介、活発な意見交換が行われた。
- ・招聘者からは、「日本が世界に誇れる文化、自然、産業等がある瀬戸内海の魅力を伝えたい。」、「最新の観光・港湾事情に関する情報等を提供頂き、今後のクルーズスケジュールの造成等に参考になる。」等、感想を頂いた。

②セミナー（その1）



MSCクルーズ

・関係者の皆様のご協力により、日本国内に向けたオリジナル商品を開発した。新しい試みとして、レゲエクルーズ等やNetflix等のメディアを使った情報発信も行っている。
・寄港地はリスト化して評価を行っている。サポートして頂いた港への恩は忘れない。
・新しい港への寄港にチャレンジしていきたい（沖縄那覇発着、石垣島、宮古島等）。



カーニバルジャパン

・ダイヤモンド・プリンセスの客層は、外国人約45%、日本人約55%で、日本人の約65%はパッケージツアー（Wi-Fi付・ドリンク付き等）を好む。
・今後は、停泊して寄港地をゆっくり楽しめる停泊ツアーも検討すると良い。
・港は電気供給等、未来に求められるインフラ整備が必要。
・町を挙げての歓迎はありがたいが、一過性ではなく継続的なサービスが重要。

②セミナー（その2）



シルバーシークルーズ

- ・探検クルーズ船（自然体験・学びのツアー）の人気の高い。
- ・現状、外国人には都市型（キラコンテンツ）が人気が高く、地方は同じ内容に見えて、印象に残っていない。
- ・通訳ガイドの英語力が韓国と比較すると低い。
- ・万博との連携が無い。当社は、モナコのF1やリオのカーニバル等の連携を行っており、祭りとの連携は重要である。



郵船クルーズ
(代理:WAVE)

- ・クルーズ再開にあたり、バスや観光ガイドの手配が困難で、入港出来ない場合もあったため、スケジュールを組むのに苦労した。
- ・寄港地と連携し、地元の食材（果物・海産物等）をPRしたい。
- ・飛鳥Ⅲが2025年夏に就航予定なので、各港と連携したい。



JTB

- ・チャータークルーズは、船社と連携して継続したい。
- ・クルーズ事業を単純な発旅行商品としてだけでなく、着地コンテンツ、インバウンド、地域活性事業等、横断的な取り組みを行ってきたい。
- ・JTBが保有する各機能（店舗・コールセンター・WEBなど）を有機的に活用し、船社特性とお客ニーズをマッチさせる商品造成及び売り方を構築してきたい。
- ・船社との戦略的業務提携を軸に、新たな航路、寄港地開発、着地コンテンツの開発を行ってきたい。



読売旅行

- ・日本人には、料金が分かりやすい（追加料金の無い）パッケージツアーの人気の高かった。
- ・アプリ（バス停や観光地への距離の検索）、Wi-Fi環境の整備が必要。
- ・高齢者のお客様も多いため、デジタルだけでなく、紙媒体の対応も行いたい。
- ・御朱印帳ならぬ、クルーズ・寄港地印帳（案）などを展開したら面白い。



東武トップツアーズ

- ・クルーズ船社と旅客のニーズは把握していたが、地元のシーズ（観光素材）を分かっていなかった。
- ・寄港地の団体観光ツアーが3割程度であり、残り7割は個人旅行の少人数行動型に変化している。（個人向けの新商品開発が必要）
- ・高価な商品ほど、地元のことを良く知っている良質な観光ガイドの確保が必要。



ディステーションアジア

- ・コロナ禍後は、探検ツアー等、人との交流や自然体験が出来るものを好まれる傾向がある。
- ・リピーターのクライアントは、新たなキラコンテンツを望まれている。（地域の独自性・ストーリー性のあるもの）
- ・観光コンテンツに加えて、お客様の経験を深めてくれる優秀な観光ガイドの手配が重要である。

瀬戸内海クルーズガイド を更新し、近年の新しいニーズや最新の情報を追加掲載。また、各種クルーズ寄港予定地等の情報を発信するため、瀬戸内クルーズホームページ も更新。

瀬戸内海クルーズガイド (2023年更新)

◆更新内容

1. 瀬戸内海クルーズプラン
→春・夏・秋・冬のクルーズプラン、探検クルーズプランの最新情報を掲載
2. 瀬戸内海沿岸の観光コンテンツ
→コンテンツのアップデート
3. 瀬戸内海に関する情報
→瀬戸内海の航行規制、主な港湾、クルーズ船受入岸壁、主な沖泊地、船内廃棄物受入情報を更新

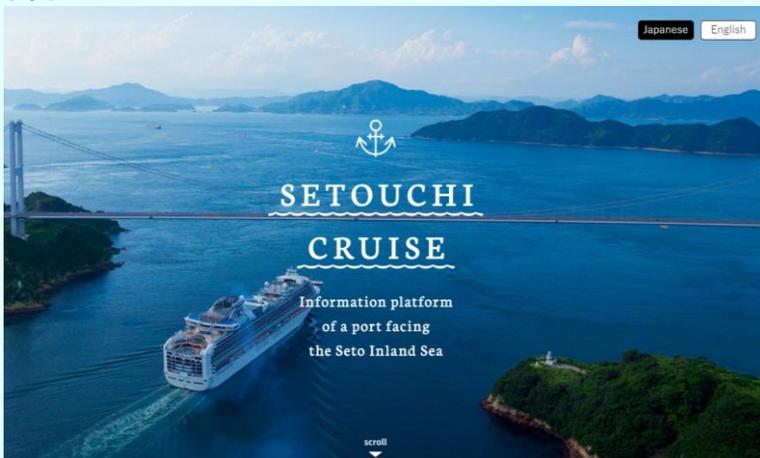


瀬戸内クルーズプラットフォーム更新

◆HP仕様

英語版、日本語版の2パターン
PR動画視聴・各港の地図上検索・都道府県別検索が可能

トップ



PR動画



各港地図上検索



都道府県検索



港の概要



2次交通船を利用した島たびクルーズの現地検証①

クルーズ船寄港時においても今後懸念されるオーバーツーリズム対策の一環として、不足する陸上交通（大型バス等）を小型船利用による海上交通で補填するとともに、瀬戸内の島々の新たな観光コンテンツを掘り起こすことで、観光地の分散化、地域振興等につなげるため、2次交通船を利用した島たびクルーズの現地検証を行った。

現地検証には、外国クルーズ船社から寄港地のプランニングを任されているランドオペレーター（東武トップツアーズ、ディスティネーションアジア ジャパン）をお招きし、寄港地の受入自治体等を含む延べ約40名が参加した。

■実施日：令和5年11月8日（水）9:00～17:00

■実施場所

・三原発着コース【1日目】

三原港→①小佐木島→②佐木島→③生口島→④大久野島→⑤大崎下島→⑥大崎上島→三原港



サイクルシッププラズリ（旅客定員130名）



⑥大崎上島（サイクリング）



②佐木島（磨崖和霊石地蔵）



③生口島（耕三寺）



③生口島（平山郁夫美術館）



⑥大崎上島（木桶仕込みの醤油）



⑥大崎上島（大望月亭）



⑥大崎上島（正光坊）



④大久野島（うさぎ）



⑤大崎下島（重伝建保存地区）

2次交通船を利用した島たびクルーズの現地検証②

■実施日：令和5年11月9日（木）9:30～18:00

■実施場所

・宇品発着コース【2日目】

宇品→江田島（①第1術科学校・②オイスターファクトリー・③江田島荘）→④倉橋島（桂浜）→⑤倉橋島（亀ヶ首）→⑥呉港→宇品



くれない2（旅客定員80名）



⑤呉港（艦船クルーズ）



①江田島（第1術科学校）



②江田島（オイスターファクトリー）



③江田島荘



⑤倉橋島（亀ヶ首発射場跡地）



④倉橋島（桂浜）

【ランドオペレーターコメント】

- ・瀬戸内の島々の魅力を体験でき、広島県の観光地は平和公園や宮島だけでは無いことを再認識した。
 - ・観光コンテンツとして素材の良いものを多く見せて頂き、瀬戸内のポテンシャルの高さを感じた。他方、戦争遺構は簡単ではないが、大変興味深く、価値ある観光コンテンツもあるため、どのように売り出していくか徐々に考えさせられた。
- 等のコメントを頂き、今後の新たな観光コンテンツの掘り起こし（ツアー造成）に繋がる現地検証を行うことが出来た。

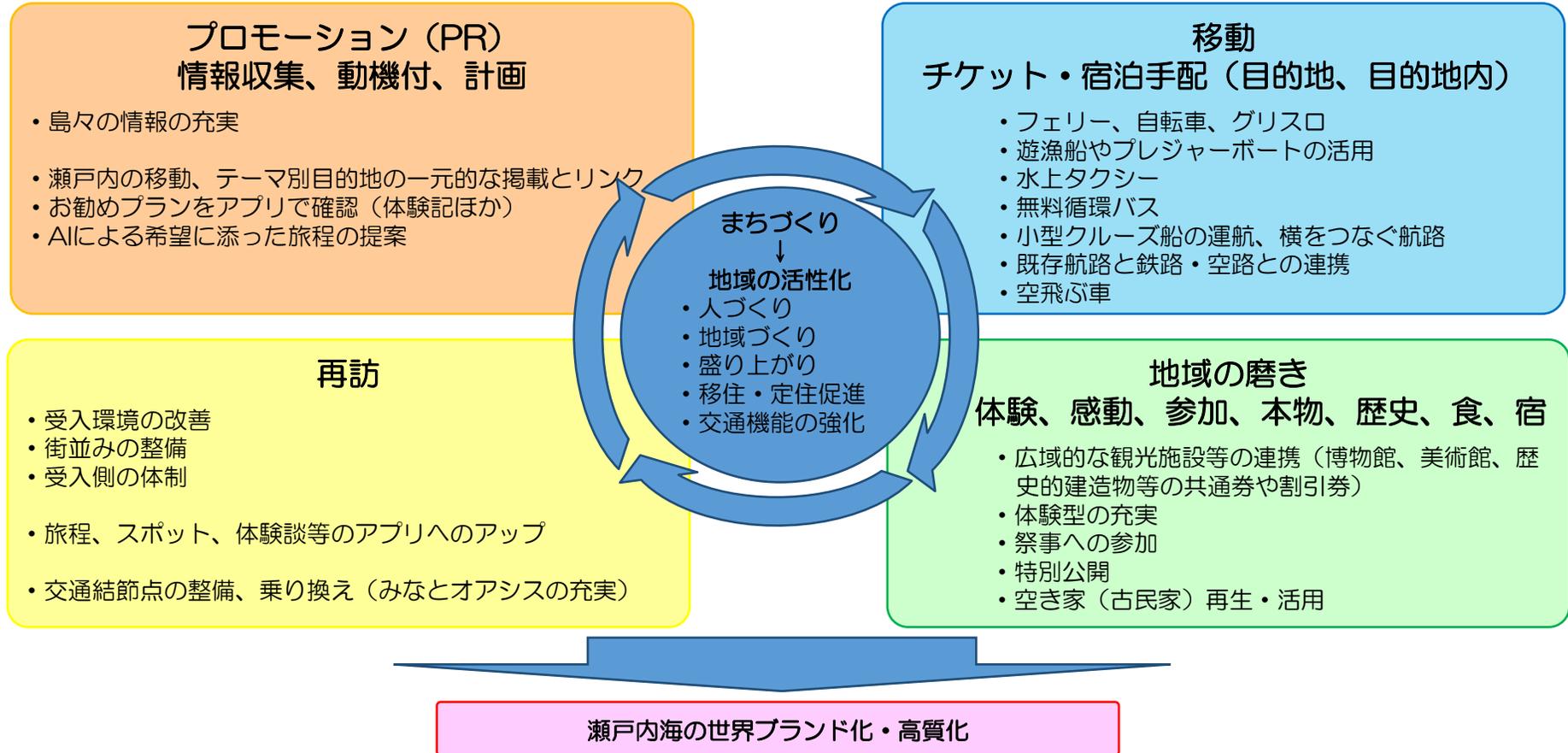
新アクションプランに向けて

瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取り組みは、クルーズ客船に着目した誘致、ブランド力向上を実施。これを継承しつつ、2025年の大型イベント（万博、世界バラ会議等）での自由旅行者の誘客、情報発信、継続的な来訪に向けた取り組みを強化し、地域の活性化に繋がる好循環を生み出す必要がある。

<現状の整理>

- ・滞在時間が短く、宿泊が少ない。内陸自治体への波及効果が薄い。
- ・「エーゲ海」、「カリブ海」に負けない景観がありながら、地元の方々がその魅力に気づいていない（当たり前風景）。
- ・地元の生活、文化への訪問。→高品質（品位・本格）が求められる。
- ・瀬戸内海の振興に向けて、あらゆる団体が各種取り組みを行っているが、平行しての取り組みで交わりがない（縦割り）。
- ・コロナ禍で島々疲弊し観光業、漁業の活力が無くなり、旅客船業界に大きなダメージ。

<地域の活性化の仕組み作り：来訪者の視点>



新アクションプラン(案)

【取り組み】

- ・小型ラグジュアリー船・エクスペディション船にターゲット
- ・効果的な商談会の実施
- ・地域別・エリア別モデルコースの充実
- ・航路網の充実とラインの見える化



クルーズネットワークの拡充

- クルーズ客船と地域を結び活性化を推進
- フェリー（定期・不定航路）、予備船等を活用した自由旅行者の誘客。
- プレジャーボートの活用

PR 地域の磨き



【取り組み】

- ・みなとオアシスの機能強化
- ・各種補助制度の充実
- ・みなとオアシスのイベント活動充実化による地域活性化



移動 地域の磨き 再訪

交通結節点の強化

- 駐車場（無料）の充実、トイレの高質化、乗換拠点の整備を充実させた地域の拠点作り。
- 地域の活性化に資する「みなとオアシス」を核としたまちづくりの推進。

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上 ～世界とつながるせとうち SETOUCHI, connected with the world～

- プラットフォームの拡充（情報の充実）
- 地域別・エリア別でのコンテンツの造成
- 体験型参加の仕組み（島を訪れる目的、きっかけ作り）
- 関係人口、活動人口の育成

地域の魅力向上

PR 地域の磨き 再訪



- ・キャッチフレーズ、ロゴ、〇〇ライン、情報の共有
- ・高級ランチ・ディナーの提供（地元製品の活用促進）
- ・お手伝い（ミカン狩りなど）、釣り、セラピーほか
- ・外国語の観光案内の充実、通訳、ガイドの育成

【取り組み】

ツールの活用

PR 移動 地域の磨き



- ・MaaSのモデル形成に向けた支援の充実
- ・AIを活用した希望に添った旅程の提案
- ・WiFi整備、キャッシュレス決済の導入

【取り組み】